

平成 20 年 7 月 30 日
東北電力株式会社
東通原子力発電所

<お知らせ情報（C情報）に至らないごく軽度な機器故障>（月報）
（機器の故障に起因する不適合事項（軽微なもの））

平成 19 年 6 月分

No.	発生日	設 備	概 要	処置状況 (6月30日現在)	発生場所
1	H19.6.13	補助ボイラー給気フード (補助ボイラーに空気を供給する送風機の給気管用のフード)	補助ボイラー給気フードの防鳥網（鳥などの侵入を防ぐための金網）取付用ビスが外れていたため、防鳥網を針金で固定した。 原因を調査した結果、給気フードと防鳥網に異なった材質を使用していたため、両部品の熱膨張の差に伴い、発生した応力が当該ビスに加わり、損傷に至ったものと判断した。 このため、防鳥網の固定をビスによる直止めからプレートにて防鳥網を押さえ、プレートをビスにて固定する構造に変更した。あわせて使用するビスのサイズアップを行った。	処置済み	補 助 ボイラー 建 屋

2	H19.6.20	放射線監視設備 (排気筒から放出される気体の放射能濃度データを収集する設備)	排気筒から放出される気体の放射能濃度データを収集する設備において、排気筒放射線測定器からの信号を現場に設置しているデータ収集用のパソコンに伝送する際に伝送異常を示す警報が発生した。現場にてパソコンの応答がないことからパソコンの再起動操作をして復旧した。 原因調査の結果、プログラム製作時のチェック不足により、データ伝送を受けるプログラム機能に一部不具合があることが確認された。このため、当該プログラムについて修正を行った。	処置済み	屋 外
3	H19.6.23	タンクベント処理設備 (放射性廃棄物进行处理するタンク等の内部の空気を移送する設備)	固体の放射性廃棄物を貯蔵するタンクの空気抜き配管とダクト(換気などのために空気を通す管)のフランジ接続部よりわずかな水の滴下が確認された。 滴下した水を分析した結果、放射能は検出されなかった。 当該フランジ部の増締めおよびコーキング(パテ状の充填材ですき間を埋めること)を実施し、漏えいのないことを確認した。 原因を調査した結果、当該部は配管とダクトとのフランジ接続部であり、ダクトの振動により、フランジ締付力が低下しやすい箇所であることが判明した。再発防止対策は、既に実施している増締めおよびコーキングの処置で十分であると判断した。	処置済み	サービ ス 建 屋

・「不適合」とは、要求事項を満たしていない状態をいいます。

処置状況欄記載の「対応中」、「補修済み・取替済み・復旧済み」、「処置済み」については、以下の状況をいいます。

・対応中：要求事項を満足する状態に復旧中です。

・補修済み・取替済み・復旧済み：要求事項を満足する状態に復旧済みです。

今後、原因調査、対策等を講じます。

・処置済み：要求事項を満足する状態に復旧し、原因調査、対策等を実施済みです。

なお、今後、水平展開について検討・対応します。

(注)平成19年2月分より、処置状況の記載を変更しております。